

ベトナム

幼児教育開発事業：完了時の結果 (TF052939)

図み3

ベトナムー幼児教育開発事業

目的。本プロジェクトの目的は、最も貧しく脆弱なコミュニティで能力を発揮できる環境を養え、山間部の少数民族の幼い子供たちの潜在能力が十分に発達するような環境を作るためベトナムを支援することでした。困難な環境でのグラント実施であったにもかかわらず、この目的は満足のいく水準で達成されました。完了時点における外部機関の評価は、コミュニティと政府との間の強力なパートナーシップ、モニタリングと監督も含めた集中的なトレーニング・プログラム、国・地方政府の政策に対する望ましい影響の3点を挙げ、このJSDFプロジェクトが成果を上げた結論付けました。

グラント実行額：1,910,800ドル

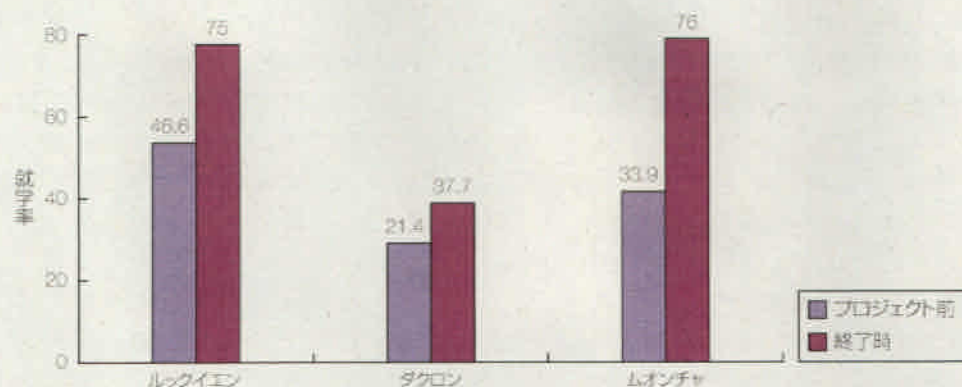
実施期間：2005年1月5日～2008年4月30日

実施NGO：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

JSDFプロジェクトの結果：

- **幼児教育の就学数増加：**このプロジェクトの大きな結果のひとつが、幼児（4～5歳児）の就学数が増加したことです。幼稚園に通う子供（3～4歳児）がプロジェクト前の30%からおよそ60%へと大幅に増えました。特にムオンチャでは33.9%が76%に増えました（下の図10参照）。

図10 ベトナムーJSDFプロジェクト実行前と完了時における3～4歳児の就学率



健康状態の改善。プロジェクト対象地区に住む子供たちの健康状態が著しく改善し、5歳未満の低体重児の割合が平均39%から19%へ低下しました。

就学前児童用施設と基本的保健サービスの質が向上。校舎やコミュニティ保健センターの新築／改築、基本的機器の提供、カリキュラム改善、キャパシティ・ビルディングにより、サービスの質が向上し、保護者や生徒の満足度が改善しました。

少数民族の子供のための就学前カリキュラムの改善。現地のニーズに対応すべく政府の政策を改革した結果、少数民族の子供のための幼児教育プログラムが改善され、教師や保健医療従事者が現地の状況により対応できるようになりました。

ECCDサービスの活用促進能力が向上。コミュニティECCDネットワーキング・グループの設置、保護者のための学習講座、医療従事者や教員によるカウンセリングのための家庭訪問、給食、情報・教育・コミュニケーション（IEC）キャンペーンなどの結果、コミュニティで幼児教育の利点に対する認識が高まりました。

保護者や教師の参加促進。読み聞かせや村落ごとの図書館、施設改善へのコミュニティの貢献、教師を村のイベントに取り込むことなど、子供の学習・知識共有活動へのすべてのステークホルダーの積極的関与を促進した結果、保護者や教師のエンパワーメントとなり、コミュニティや子供の生活が改善されました。

「唯一、教育よりも重要なのは
幼児教育であると確信している。
このプロジェクトでセーブ・ザ・チルドレンと
協力できたことを嬉しく思う」

エデュアルド・ベレッツ・ブスティロ
教育セクター・マネージャー (EASHE)

得られた教訓

分野横断的な包括的アプローチがECCDの効果を高める。家庭レベル、コミュニティ・レベル、制度レベルでECCDを支援する複合的なマルチセクターの介入の方が、単独で行われる介入よりも子供の発育により良い影響を与えたとの示唆があります。子供たちの包括的発達のためには、保健、栄養、教育、保護、物理的・社会的活動が極めて重要です。複数のセクターにまたがる高い実施能力が必要であり、このプロジェクトではECCD従事者のキャパシティ・ビルディングのための短期研修コースに様々な方法がとられました。3件のプロジェクトのいずれの現場においても、現地政府と教育当局が、幼児教育と子供の発育のための包括的なマルチセクターの戦略を策定しています。

施設改善のための三者パートナーシップ。本プロジェクトは、社会から取り残された多くの人々にECCDを拡大する実証的なモデルとなっています。大半のプロジェクト・モデルは縦割りになっていますが、政府／現地パートナー／国際NGOの三者によるパートナーシップは、従来のプログラムでカバーされなかった貧困層へのサービス提供の障害を解消する効果的なモデルであることが証明されています。このモデルでは、プログラムの提供に影響を及ぼす政策や慣行を変更するため、知識共有や相互の影響が強調されており、コミュニティにとってエンパワーメントのプロセスとなっています。



ベトナムでのECCD JSDFプロジェクト。上の写真は、保育園併りの子供たちと補助教員です。右側後方に見える赤いブリキ板の屋根の建物が、JSDFグラントにより新築された教室です。この新教室によって教育環境が大きく改善されました。通常は約30人の5〜6歳児が毎日通園していますが、教室が新築されてからは3〜4歳児も通園できるようになりました。JSDFプロジェクトによりムオンチャ県では32の保育園教室が新築され、6つのコミュニティで合計約1500人の子供たちがその恩恵を受けています。下の写真が、JSDFプロジェクトよりも前に使われていたかつての教室です。



写真撮影 Binh Thanh Vu 上級教育専門
官兼JSDFタスクチーム・リーダー

コミュニティのオーナーシップや結果達成のための計画立案とモニタリングを目指すボトムアップ型アプローチ。参加型計画立案プロセスの中で、プロジェクト介入が進められました。地区のプロジェクト管理委員会が、コミュニティ管理委員会の参加を得て、プロジェクト・スタッフやアドバイザーの技術協力を受けながら、月次計画、四半期計画、年次計画を策定し、オーナーシップと結果を最大化しました。保護者やコミュニティ、指導者たちのオーナーシップと認識により、よりよい結果が実現し、EGCDへの需要が拡大しました。

家庭訪問やコミュニティ・ガバナンスで教師が果たす役割。教師は親や保護者にECCDの知識を提供し、村の会合でECCDのメッセージをコミュニティ・ガバナンスに取り入れるために重要な役割を果たすことができます。

栄養不良の防止。特に食糧難の際に貧困層を中心に国民の栄養状態を高めることは、厳しい時期に栄養不良を防止するのに役立ちます。

コミュニティ・プロジェクト管理委員会の設置。コミュニティ・プロジェクト委員会が、村レベルでのすべてのプロジェクト活動の実施とモニタリングにおいて最も重要な役割を果たしました。同委員会は、コミュニティの人民委員会の委員長が議長を務めました。メンバーには、女性連合、保健・教育関係の職員、人口・家庭・子供問題の委員会などが含まれています。

NGOへのプロジェクト立ち上げ前の研修。NGOが受領機関となる場合、調達と財務管理に関する世銀ガイドラインについて事前研修を行うことが、プロジェクト立ち上げの遅れを防ぎ、タイミングよく受益者の期待に応えるために不可欠です。